

翻訳にあたってのヒント

その 113

★ 「返却パッケージ」の問題と、「Trados 2014 で大きく様変わりしたメニュー」など ★

今年の下半期（2013年）に入ってから、トラドスを使った翻訳対象フォルダやファイルなどを含んだパッケージを客先から渡され、納品には返却パッケージで送り返すようにとの要望が入るようになった。一応、トラドスのマニュアルに沿って手順を踏んでみたが、これがうまくいかない（その作成過程で表示される翻訳対象ファイルの翻訳率がオリジナルのまま＝つまり未翻訳のままであることがその原因）。そこでインターネットでいろいろ当たり解決を試みたのだが、これぞズバリという解決策は見当たらなかった。そこには、次のような大きな落とし穴があった。この客先から渡されたパッケージをクリックすると、トラドスが自動的に開き、後は画面の指示に従ってプロジェクト・フォルダを作成してくれるのだが、その保存先がエクスプローラから開くと、「ライブラリ > ドキュメント > Studio 2014 > Projects > プロジェクト名 > ここに下位フォルダがある！」（日本語環境）あるいは英語環境だと「C:\Users\ユーザー名\Documents\Studio 2014\Projects\プロジェクト名」（Trados 2011 の場合には、Studio 2014 のところが「Studio 2011」となる）なのである。よってここにある対象ファイルや翻訳メモリを更新していかない限り、適切な返却パッケージを作成できなくなる、ということが試行錯誤を重ねてやっとのことで判明した。つまり、初めの段階から、適切な翻訳メモリと翻訳対象ファイルを指定しないことには、適切な返却パッケージが出来ないということである。極論を言えば、翻訳するファイルが例えば一つだけの場合には、こんなパッケージをわざわざ作らなくても、「翻訳対象ファイル（元のファイル形式に関係なく SDL XLIFF Document 形式のもの）と翻訳メモリ（過去に作成した関連する翻訳メモリがなければ「空の翻訳メモリ」）だけを送っていただければ、こちらとしては、そのまま直に翻訳に入れ、納品もこの二つのファイルだけで済むので大助かりなのだが、客先によっては、その手順やこのことすらも分かっていない（しかも解析ファイルすらも送ってこない）トラドス操作に無知の不逞の輩がいるから困ったものである。

同じような問題を抱えている方がいれば、是非参考にさせていただければ幸甚である。

■ プロジェクトのある場所（自分の場合で、Trados 2014； 客先から頂いたパッケージを開くと自動的に作成される）：

「ライブラリ > ドキュメント > Studio 2014 > Projects > プロジェクト名 > ここに下位フォルダがある！」

下位フォルダとして、「en-US、ja-JP、Packages、Reports（他に翻訳メモリーがあれば TM）の各フォルダ」があり、プロジェクトが自動作成されると「プロジェクト・ファイ

ル」も入る。

英語では → 「C:\Users\ユーザー名\Documents\Studio 2014\Projects\プロジェクト名（この下に下位フォルダがある！）」

※ 返却パッケージの作成元になるファイルは、「プロジェクト」を強調表示して指定してから、「ファイル（左下部）」をクリックし、左上部に出示されるファイル欄の「プロジェクト フォルダ」の下にある「マイタスク」の真下にある「翻訳」を指定してからビュー上面に表示される「ファイル」である（※このファイルをクリックするとビュー下面の「ファイルの詳細欄」にある「パス行」で保存場所を確認できる）。

※ 返却パッケージ作成時には、ここのファイルが作成元となるので、必ず開いて更新すること。100%翻訳されていない場合には、「ファイル（左下部） > フォルダをエクスプローラで開く(L) > 上記のフォルダにあるファイルを指定して開き、100%翻訳を完了し検証してから、保存すること。なお、「客先から渡される初回パッケージは、O.sdlppx ファイル」である。また、念のためとバックアップを取ることを目的として、この返却パッケージを含めた「プロジェクト・フォルダ」を別ドライブのフォルダに（できれば同じ名前でも）保存しておくこと。

■ Trados Studio 2014 での返却パッケージ作成方法：

プロジェクト（左下部） > ビュー画面でプロジェクト名を強調表示し右クリック > 返却パッケージの作成(R) > 「ファイルの選択」画面でファイルと翻訳済みを確認 > 次へ > 保存場所を選択し、コメントを記入（あれば） > 終了(F) > 完了を確認し閉じる(C)をクリック。 > 「O.sdlrpx ファイルという返却パッケージ」が作成される。 → 最後に納品する際には、「返却パッケージと請求書」を送信するだけでよい場合もあるが、できれば「訳文のみファイル、TM」も送信するとよいだろう（完璧を期すため）。

また、以下の記事も一応参考になるので、一通り通読されるようお勧めする。

■ 返却パッケージの作成方法（オンラインヘルプ）：

<http://kb.sdl.com/#tab:homeTab:crumb:7:artId:4217>

■ Studio 2009 初歩 - 2 つの翻訳メモリの存在：

<http://baldhatter.txt-nifty.com/trados/2010/09/studio-2009---2.html>

■ Studio 2009 初歩 - プロジェクトファイルの物理的な配置：

<http://baldhatter.txt-nifty.com/trados/2010/09/studio-2009---6.html>

さらに、一番よく使う「翻訳メモリを開く」「ファイルを開く」や「ファイルの保存と検証」についても、UI が下記のように変わっているので注意されたい（持論を言えば、これまで

Trados 2011 を使ってきた経験からして、2011の方が使いやすかった。Trados 2014 を初めて開いて作業した時、どこに何があるやらわからず、面食らってしまった！)。

以下に示すように大きく様変わりしている。

Trados 2011 のエディタ・ビューのメニュー：



Trados 2011 の翻訳メモリ・ビューのメニュー：



Trados 2014 のエディタ・ビューメニュー：



Trados 2014 の翻訳メモリ・ビューのメニュー：



■ Trados Studio 2014 のファイル保存方法：

ファイル（上部のメニュー） > 詳細保存 (A) > すべて保存 (V) Ctrl+Shift+S
あるいは 別名（原文のみ）で保存 (U) 【これしか表示されない！】

また、ファイル（上部のメニュー）をクリックして開かれる【ファイル欄】には、上から：

閉じる (C) Ctrl+F4

すべてを閉じる (L) Ctrl+Shift+F4

保存 (S) Ctrl+S

別名（訳文のみ）で保存 (G) Shift+F12

の四つのメニューの他に別のメニューも用意されている。

また、

- Options to Save Documents（英語のみしかないヘルプ）も一応参考のこと。

■ Trados Studio 2014 のファイル検証方法：

エディタ（左下部のタブ） > レビュー > 品質保証 (A) > 検証 (Y) アイコンをクリックする。

また、

- **Verifying Translations**（英語のみしかないヘルプ）も一応参考のこと。

トラドスを使っている日本人ユーザーの大半が英語・日本語を大体解せる人達であることは当たり前なんだろうが、この英語でしか出されないヘルプは、どうにかならないものだろうか。と言うのも、英語の解説と比して、日本語版の Trados 2014 の実際の操作手順には多少異なる点があると思われるので、日本人ユーザーのためにローカライズした的確な日本語ヘルプが必要だからである。SDL さん、是非ご検討を…。

これにて、第 113 回目完了。